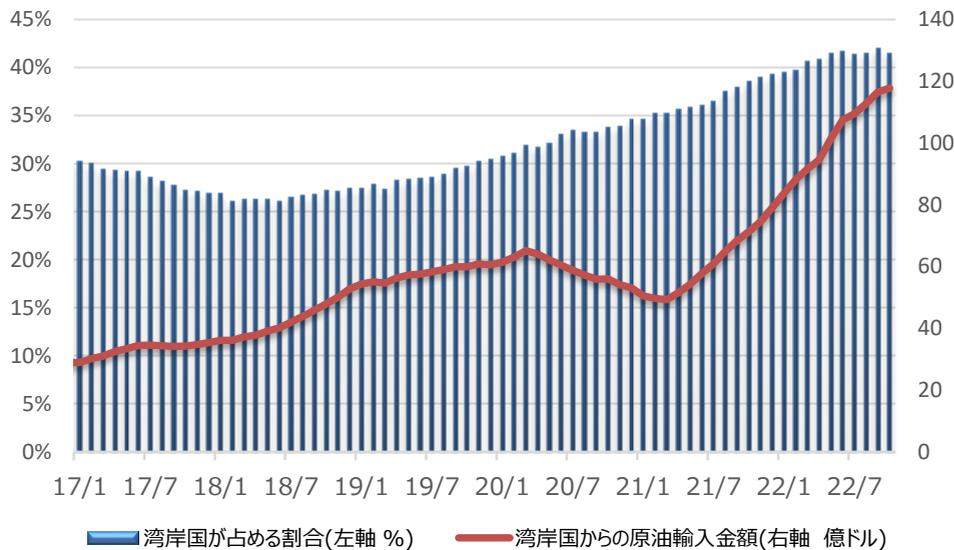


りそな Asia時事フラッシュ

中国と湾岸諸国の関係強化: 人民元国際化の好材料

- 中国・習近平国家主席がサウジアラビア訪問中、今後石油・ガス貿易の人民元建て決済を展開すると表明。また、湾岸諸国の中国資本市場への参入促進や双方のソブリンウェルスファンドの提携など金融・投資面での協力についても提案した。
- 人民元建て決済の詳細は明らかにされておらず、短期的な人民元相場への影響は限定的であるが、実際に決済開始されると長期的なプラス材料となる可能性があるだろう。中国の湾岸諸国からの原油輸入の月間データ（左下図）をみると、中国原油輸入のうち湾岸諸国が占める割合は過去12か月平均で約42%、金額ベースでは約118億ドルとなっており、直近で増加傾向にある。また、LNGについても約10億ドルの輸入があり、仮に原油とLNGが全額人民元決済になったとした場合、月間128億ドル分の人民元売り圧力がなくなる試算となり、人民元増価につながりやすいだろう。
- また、中国が人民元で湾岸諸国に原油・ガスの代金を支払い、湾岸諸国も中国企業が提供するインフラ建設などの代金を人民元で支払えば、人民元による資金循環が生まれ、こうした動きは継続的となりやすい。湾岸諸国の人民元取引が軌道に乗ると、他国とのエネルギー取引においても人民元を使う可能性が広がるだろう。
- もちろん、人民元は資本移動の自由に制約があるほか、米中対立激化の中での米国の対抗措置の可能性も踏まえると、切り替えの過程は順風満帆ではないだろう。一気に現状のドル建て決済がすべて人民元決済に切り替わることはなく切り替えは漸進的となりやすいが、原油・ガスの人民元建て決済の始まりは人民元国際化には大きな前進といえる。
- また、湾岸諸国のソブリンウェルスファンド(SWF)の中国市場の参入も人民元の国際化には好材料となる。SWFは国家による金融資産の運用。右下が湾岸諸国の代表的なSWFであるが、規模が大きい分、世界金融市場において絶大な影響力を持っている。湾岸諸国のSWFのような長期投資家の関与が強まれば、中国資産の魅力度が向上し、人民元の保有インセンティブが高まりやすいと考えられる。
- 習主席のサウジアラビア訪問で表明されたこの2つの人民元の国際化の材料は、長期的な人民元高要因として今後も動向に注目していきたい。

中国の湾岸諸国からの原油輸入状況 12か月移動平均



湾岸諸国主要ソブリンウェルスファンド資産規模(億ドル)

